

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：31302

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13091

研究課題名（和文）中国近代美術における漫画の役割 1940年代の葉浅予を中心に

研究課題名（英文）Manhua in Modern Chinese Art: the Study on Ye Qianyu in the 1940s

研究代表者

城山 拓也（SHIROYAMA, Takuya）

東北学院大学・教養学部・准教授

研究者番号：60749109

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、中国の画家・葉浅予（1907～1995）の1940年代の創作活動を取り上げ、一次資料の収集、整理、および作品分析を行った。特に、葉浅予の代表作であるコミック・ストリップ「王先生」シリーズ、およびスケッチ「旅行漫画」に着目し、中国における「漫画」の独自性について再評価している。本研究により、中国近代美術史における「漫画」の誕生と隆盛、および変容の様相を、実証性を伴いながら明確にすることが出来た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、広く1920-50年代の葉浅予の創作に着目し、一次資料の収集・整理を通じて考察を進めた。毎年の研究成果は、研究報告や学術論文の形で発表している。また、研究書『中国漫画のモダニズム 葉浅予と王先生の物語』を刊行し、日本のアカデミズムにおける中国漫画研究の下地を作ることもできた。本課題の成果は、美術研究のみならず、中国近現代文学研究、および日本の漫画（マンガ）研究にも、大きな刺激を与えるであろうと思われる。

研究成果の概要（英文）：In this study, I have collected and organized primary sources and analyzed the works of the Chinese painter Ye Qianyu (1907-1995) of the 1940s. In particular, I focused on the comic strip "Wang Xiansheng (王先生)" series and the sketches "Luxing Manhua (旅行漫画)", which are his well-known works, and considered to be unique of "Manhua (漫画)" in China. Through this research, I have empirically clarified the birth, development, and transformation of "Manhua (漫画)" within the history of modern Chinese art.

研究分野：中国近現代文学

キーワード：中国漫画 葉浅予 日中戦争 プロパガンダ 1940年代

1. 研究開始当初の背景

葉浅予は今日まで、漫画、スケッチ、中国画など、さまざまな美術ジャンルにおいて作品を発表した画家として知られている。

漫画については、畢克官、黄遠林編著『中国漫画史』(1986)などの漫画史が、葉浅予を、漫画という舶来のジャンルを中国に根付かせた人物として評価してきた。特に、1920、30年代において、複数の画家と中国初の漫画団体「漫画会」を設立し、雑誌『上海漫画』、『時代』を編集したり、長篇連載漫画「王先生」を連載したりした点に注目を集めている。また、森哲郎『抗日漫画戦史 中国漫画家たちの15年戦争』(1995)が評価するように、日中戦争の勃発に伴って「抗日漫画宣伝隊」の隊長となり、漫画の技術を政治宣伝目的に利用した点も重要である。彼は1930年代後半から40年代にかけて、中国の内陸部を転々として、その他の画家たちと共に抗日プロパガンダ漫画を制作した。

もちろん、先行研究は漫画の他にも、葉浅予が多様なジャンルで作品を制作していたことを指摘してきた。例えば、劉源「葉浅予 二十世紀中国文化景觀中的画家個案研究」(中央美術学院博士論文、2007年)は、葉浅予が漫画を基礎として、スケッチ、中国画、芸術教育など様々な分野で中国美術に影響を与えた点を明らかにしている。ただし、それぞれの作品については、ジャンルごとに個別に分析されることが多く、相互関係を指摘することは少ない。また、中国美術史における重要人物であるにも関わらず、基礎的な資料整理、検討が進んでいないため、多くは概説的、および印象論的な指摘に留まっている。

例えば、葉浅予は1949年の中華人民共和国以降、それまで手がけてきた漫画制作をやめてしまい、主に中国画の分野において本格的に作品を制作し始めている。しかしながら、葉浅予がいかんして漫画の技術、経験を他ジャンルの作品に応用したのか、具体的に、また実証的に考察した例は今日において見当たらない。先行研究は、20世紀における葉浅予の創作活動を、漫画を手がけた中華民国時期、それに中国画を主とした中華人民共和国時期と、政治区分により分け隔てる傾向が強かった。したがって、彼が中華人民共和国以降、なぜ漫画を手放すことになったのか、その理由が明らかになっているとは言い難い。

言い換えれば、先行研究は葉浅予の1920年代から40年代までの漫画制作を、中国美術史における例外として位置づけてきたということである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、中国近代美術において漫画が果たした役割の一端を、葉浅予の事例を通じて明らかにすることにある。葉浅予は1940年代、抗日プロパガンダ漫画だけではなく、中国貴州の少数民族や、インドの踊り子を対象に、数多くのスケッチを制作していた。また、1950年代以降も、40年代以前の漫画の芸術的成果、およびプロパガンダ効果を積極的に中国画に利用し続けている。本研究では、漫画がスケッチ、および中国画にいかなる影響を与えていたのかを検討することで、当時の葉浅予の目指した美術が何だったのかを浮き彫りにする。

例えば、1930年代後半の日中戦争の勃発により、葉浅予の漫画というジャンルに対する認識がいかに変化したのか。長篇連載漫画「王先生」や抗日プロパガンダ漫画におけるカリチュアなどの技術を、後のスケッチにどのように応用したのか。葉浅予の創作人生を一貫する「舞踏」というテーマがいかに登場し、漫画、スケッチ、中国画といかに関わったのか。以上のような問題について、新聞、雑誌における一次資料の発掘を通じて、葉浅予の漫画が中国近代美術において果たした役割を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 1930年代から50年代まで、葉浅予がいつ、どこに移動し、誰と交流し、どのような影響を受けたのか、事実確認を精査する。自伝『細叙滄桑記流年』(1992)での記述を導きとしつつ、一次資料の調査と整理、および関係者へのインタビュー(新型コロナウイルスの影響により断念。後述する)を行う。

(2) 葉浅予の1940年代の作品を対象に、いつ、どこで、誰を対象に作品を制作したのか、またどこで、どのように作品を発表したのか調査、整理する。(1)の成果をもとにデータベースを作成し、個別の作品について検討を進める。

(3) 葉浅予の1930年代後半から1950年代までの作品について、内容面や技巧面における継承や断絶について検討する。本研究では、新しい視点から漫画、スケッチ、中国画など多様な美術ジャンルにアプローチするため、研究会やセミナー、そして学会におけるパネル発表を行って研究方法をブラッシュアップする。

4. 研究成果

以下、(1)～(4)まで、年度ごとに研究成果を記す。

(1)

2019 年度前半は、葉浅予の 1930 年代から 50 年代までの創作活動を対象に、国内外で資料調査と整理を進めた。具体的には、中国の上海図書館にて、8 月 3 日から 8 日にかけて『救亡漫画』、『抗戦漫画』といった重要雑誌、および『戦闘画報』、『抗日画報』、『今日中国』、『耕耘』、『清明』といった文学史上マイナーな雑誌のマイクロフィルムを精査し、葉浅予の絵画、文章について調査、整理を行った。国内では、立命館大学図書館にて、『申報』、『新華日報』を閲覧するほか、インターネット・アーカイブ「Late Qing and Republican-Era Chinese Newspapers」や「中国歴史文献総庫」を利用し、中国各地の新聞資料から葉浅予関係の記事を洗い出した、さらに、中国の古書店で古書（特に画集）を購入した上で、可能な限り葉浅予の作品創作の実態について整理を進めた。

2019 年度後半には、以上の資料調査と整理の結果に基づき、各種シンポジウム、研究会で研究報告を行った。例えば、10 月 6 日、国際シンポジウム「戦後中日芸術交渉 継承と展開」（於中国・清華大学）にて「1940 年代中国漫画的变化——以葉浅予『打箭炉日記』為例」を発表し、新資料を紹介するとともに、葉浅予の 1940 年代の創作活動の意味について基礎的な考察を加えた。2020 年 1 月 25 日には、20 世紀メディア研究所第 134 回研究会（於早稲田大学）にて「日中戦争期における葉浅予の宣伝工作」を発表し、作品整理の状況を報告するとともに、こちらも基礎的な作品分析を行った。

（ 2 ）

2020 年度は新型コロナウイルスの影響により、国外出張・国内出張ともに不可能となり、当初の目的であった資料収集、研究会の開催、およびインタビューを断念せざるを得なかった。代わりの方策として、（国内で手に入るもののみではあるが）資料の収集と整理、論文の執筆、および単著の執筆に力を注いだ。

資料収集と整理については、影印本の『抗戦時期画報資料選編』（国家図書館、2019 年 10 月、全 10 冊）を利用し、1930 年代後半から 40 年代の中国漫画の実態を精査するとともに、葉浅予の動向について整理を進めた。特に、『今日中国』、『大地画報』といった雑誌から、貴重な資料を確認することができた。

論文については、1930 年代後半の葉浅予の創作を検討対象とした、単著「諷刺とユーモア——『小陳旅京記』と『留京外史』について」（『夜の華——中国モダニズム研究会論集』中国文庫、2021 年 3 月、202-229 頁、査読有）を発表した。

（ 3 ）

2021 年度も新型コロナウイルスの影響により、当初の予定を大幅に変更せざるを得なかった。その代わりに、引き続き資料の収集と整理、論文の執筆、および研究書の執筆に力を注いだ。

資料収集と整理については、オンライン・データベースの「全国報刊索引」、および影印本『民国時期漫画雑誌彙編』（国家図書館、2020 年、全 32 冊）を利用し、葉浅予の作品について整理を進めた。特に、これまで知られていなかった貴重な一次資料を確認することができ、論文にも反映させることができた。以上の作業を通じて、1930～50 年代の葉浅予の創作の全体像を、ある程度はつかめてきたのではないかと思われる。その一方で、展覧会の情報や伝記事実などについては、関係者のインタビューを断念したことにより、裏付けを取ることができていない。

現時点での成果を発表するため、研究報告「中国漫画言説の系譜」（第 69 回東北中国学会大会、2021 年 5 月 29 日）にて、中国漫画をめぐる言説・研究を整理した。また、論文として、1930～40 年代の葉浅予の創作を検討対象とした、単著「日中戦争初期における葉浅予」（『連環画研究』第 10 号、2021 年 9 月、2-33 頁）を刊行した。

（ 4 ）

2022 年度は、新型コロナウイルスの世界的流行の影響が緩和したとはいえ、予定していた国外（中国）への出張は不可能であった。その一方で、国内出張が可能となったため、資料調査および研究会への参加を通じて、ある程度の成果をあげることが出来た。例えば、東洋文庫（東京都）・各種図書館の資料調査を実施し、これまでの民国期を対象とする中国漫画の調査・考察を補完した。この結果については、研究報告「1940、50 年代における葉浅予の中華民族認識」（建国初期中国を移動する身体メディア・プロパガンダ第 2 回ワークショップ、東京大学駒場キャンパス、2022 年 9 月 3 日）において、部分的に発表している。

また、本年度は、研究書『中国漫画のモダニズム——葉浅予と王先生の物語』（関西学院大学出版会、2023 年）を刊行することが出来た。この研究書は主に 1930 年代を対象とするものではあるが、20 世紀中国美術史における漫画の位置付けに触れたこと、特に終章において 1940 年代に目を向けたことなど、本研究の成果を反映させている。

本研究は、期間全体にわたって新型コロナウイルスの世界的流行の影響を被ったため、当初の計画を抜本的に変更せざるを得なかった。その一方で、各種データベース、および影印

本の調査により、部分的にはあるが、1940年代中国における漫画の状況および葉浅予の創作の実態について整理・検討ができたように思われる。その一方で、葉浅予一人、および漫画だけに着目しているだけでは、どうしても資料的な限界があることも判明した。今後は新たな芸術家も視野に入れた上で、中国近代美術について考察を続ける予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 城山 拓也	4. 巻 10
2. 論文標題 日中戦争初期における葉浅予の抗日漫画	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 連環画研究	6. 最初と最後の頁 2-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 城山 拓也	4. 巻 なし
2. 論文標題 諷刺とユーモア 「小陳旅京記」と「留京外史」について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 夜の華 中国モダニズム研究会論集	6. 最初と最後の頁 202-229
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 城山拓也	4. 巻 247
2. 論文標題 プロバガンダと装飾芸術 張光宇『西遊漫記』をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 94,112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 城山 拓也
2. 発表標題 中国漫画言説の系譜
3. 学会等名 第69回東北中国学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 城山拓也
2. 発表標題 1940年代中国漫画的变化 以葉浅予『打箭炉日記』為例
3. 学会等名 戦後中日芸術交渉 継承与展開（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 城山拓也
2. 発表標題 日中戦争期における葉浅予の宣伝工作
3. 学会等名 20世紀メディア研究所第134回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 城山拓也
2. 発表標題 1940、50年代における葉浅予の中華民族認識
3. 学会等名 建国初期中国を移動する身体メディア・プロパガンダ第2回ワークショップ（国際学会）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 城山 拓也	4. 発行年 2023年
2. 出版社 関西学院大学出版会	5. 総ページ数 384
3. 書名 中国漫画のモダニズム 葉浅予と王先生の物語	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------